

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2022年(令和4年)12月15日号 No.1911

目次

■ ロシア国内専門家による「2023年マクロ経済展望」長谷 直哉	1
■ 統計速報	6
2022年1～11月のロシアのブランド別乗用車販売台数／6	
■ キーパーソン	7
カザフスタンでアスタナ新市長就任／7	
■ トピックス	8
日本政府、ロシア産原油価格の上限価格を適用へ／8	
プーチンが非友好国との株式・持分取引制限を延長／8	
ハイレックスがロシアから撤退／9	

ロシア国内専門家による「2023年マクロ経済展望」

(一社)ロシアNIS貿易会モスクワ事務所 所長
長谷 直哉

はじめに

本稿では、2022年12月2日(金)にモスクワにて開催されたヴェドモスチ紙主催カンファレンス「2023年のマクロ経済展望」における登壇者の重要発言概要を紹介することとしたい。ヴェドモスチ紙は毎年12月に、ロシア国内の著名なエコノミストを招待して翌年の経済展望を占うカンファレンスを実施しており、そこでの発言はヴェドモスチ紙はじめ、ロシア経済メディアにて注目されることも多い。本カンファレンスは、ウクライナへの侵攻後に急速に変化するロシアの経済情勢下にて開催されたものであり、また、「外国エージェント法」を始めとする様々な規制強化により対外的な意見発信に一層の注意を払わねばならなくなったロシアにおいて、今後の経済展望に関してロシア国内のエコノミストの間で共有されている見方を把握する貴重な機会となった。

登壇したエコノミストの見方は、ロシアのマクロ経済動向についておおむね楽観的な姿勢を示しており、これは対ロ経済制裁により未曾有の危機に陥ったロシア経済のダメージが当初の想定よりはるかに小さかったこと、またロシア政府や中銀の政策面での対応が一定の成果をもたらしたことが背景にある。しかしながら、議論が経済各論や世界的な景況見通し、あるいはミクロでの各種産業動向に及ぶと、悲観的な見通しも語られた。特に、ロシア経済の急速な中国依存の増大、国内からの大規模な人材流出、金融面での制約や不動産市場の低迷などが不安要素として挙げられた。以下、カンファレンスの議論を4つのテーマ(石油ガス分野、中国ファクター、マクロ経済見通し、為替・債券・不動産市場)に整理し、取りまとめた。なお、本稿末尾には本カンファレンスのプログラムも付した。